

1983年 9月10日

毎月10日、25日発行

第45号 4頁 150円

定期購読料(1部22回)  
手渡し3000円/開封3500円/密封4000円

## 旗

共産主義者同盟中央機関紙

(1980年2月28日第3種郵便物認可)

発行

赤路社

東京都大田区大森北1-13-11

電話(03)766-4729 東京7-86947

編集・発行人 北沢晋

関西赤路社  
大阪市福島区大通1-19-13  
副島ビル 電話(06)462-7030

## 秋期行動スローガン

日米攻守  
軍事同盟打破朝鮮・アジア人民と連帯し  
中曾根政府を実力打倒せよ

今秋、三里塚・安保・反行革  
を闘い日本共産主義運動と階級  
闘争の前進をめざそう。わが  
同盟は臨時大会の地平を、各地

ソ連機による大韓航空機撃  
墜事件は、極東におけるソシテ  
ト米日帝との軍事的緊張の高ま  
りを窺々に示した。

中曾根は、一月訪米時に確認  
した「日本列島不沈委員会」四  
海峡封鎖「千カイリシーレン防  
衛」の実現に向けて、空襲しつ  
つある。十月一日には、原子力  
爆弾を迎えておこなわれようと  
している。

入港する。そして、十月六日か  
ら十五日まで北海道でこれまで  
最規模の日米陸上部隊の実戦  
演習が、本土からの新鋭歩兵  
部隊を迎えておこなわれようと  
している。

日米安保体制の攻守軍事同盟  
がますます強化され、これに對  
抗したソシテトの極端軍備増強が  
続く限り、大韓航空機の悲劇ば  
れており、

二期実力阻止・廢港の戦略的布  
陣を形成してきだし、実力闘争  
は望むところであるからだ。  
そして、中米革命の前進、ア  
ジアのブロック集会成功を通じて、  
三期実力阻止・廢港の戦略的布  
陣を形成してきだし、実力闘争  
は望むところであるからだ。

中曾根はレーガン訪日、訪韓  
の総決算」をかけて行革を断行  
をテコに米日韓一角軍事同盟化  
を推進する、と同時に「戦後史  
と闘おう！」、「公労連」を強化しよう！  
止！ 国鉄・官公労への解体攻撃粉碎！  
と闘おう！ 「公労連」を強化しよう！  
◆労働者階級は、反安保・反侵略・反改憲の  
全人民闘争の牽引車たれ！  
実力で打倒せよ！ 青年は反戦・反安保闘争の先頭へ！  
一、朝鮮・アジア人民と連帯し、対ソ・朝鮮侵略  
反革命戦争準備急ぐ中曾根自民党政権を

一、行動スローガン ■■■■■  
一、朝鮮・アジア人民と連帯し、対ソ・朝鮮侵略  
反革命戦争準備急ぐ中曾根自民党政権を

一、強まる失業・首切り・賃金抑制・合理化攻撃  
と闘おう！ 人効率・福祉予算切り捨て、  
大型間接税導入粉碎！  
一、田中口ツキード汚職・金権・腐敗の  
自民党弾劾！  
一、田中口ツキード汚職・金権・腐敗の  
自民党弾劾！

一、強まる失業・首切り・賃金抑制・合理化攻撃  
と闘おう！ 人効率・福祉予算切り捨て、  
大型間接税導入粉碎！  
一、田中口ツキード汚職・金権・腐敗の  
自民党弾劾！

一、強まる失業・首切り・賃金抑制・合理化攻撃  
と闘おう！ 人効率・福祉予算切り捨て、  
大型間接税導入粉碎！  
一、田中口ツキード汚職・金権・腐敗の  
自民党弾劾！

二期阻止・空港廃港  
9.15現地総決起集会  
=三里塚・芝山に闘う人民の村を=  
正午・横堀現地闘争本部前  
(前夜、反対同盟と交流会)

こうした一期着工をめぐる攻撃

一掃されないのである。

九・一五・三里塚現地闘争をめ

ぐる情勢はどうか。政府・公團

は、一期着工に向けて成田用水

一坪共有者の切り崩し・話し合

い攻撃、と同時に、千葉議会

成田市議会を通じた「下から」

二期推進の反動キャンペーン

を組織している。しかし、三重

県議会と支援は、こんな事

には驚かない。三・八総会宣言

# 日米安保体制と日本革命

近年、日米安好問題についての関心が再度もりあがりをみせている。この問題は、かつて政治上の中心問題となつた。すなはち、六年安好講争がそれでゐる。旧安條約の改定時に、平和と民主主義、革命と戦争とをめぐつて、何十万人という労働者・市民・学生大衆が、政治決起した。

今日における関心の底にあるものも、こうした基本問題をめぐつてのものである。しかし、歴史背景、実態はすっかりかわつてゐる。西側帝国主義は一千余年前とは比較にならぬ程の危機にある。ソ連との対立は、世界規模で緊張を高めており、戦争の危険がつよまつてゐる。日本帝国主義の軍事力は、格段に飛躍しており、一方での合衆国の地位の相対上の低下に対し、一貫して比重を高めている。これら情況は、日米安好体制として結ざれる両者の関係を、否応なく再編させている。

とりわけ、中露戦争はこの再編を促進し、安保・防衛問題で突出した政策

を展開してきた。それらの政策は、今秋、「日米安保事務レベル協議」の開催と最新鋭原子力空母「カール・ビンソン」の佐世保寄港、レーガン訪日等に結実されんとしている。われわれは、これら帝国主義戦争の準備を推進する諸関係を、その根元から分析し、暴露しなければならない。

同時に、日米安保問題ほど、わが国左翼内で見解の分かれているものも珍しかった。その分歧は、同時に革命路線との相違に連なつていた。われわれは、ここで日帝打倒・米帝一掃・社会主义革命の達成という特異な立場をとってきた。これは、他の二つの代表的見解といずれも相入れないものである。この路線はいわゆる「従属論」と「自立論」とへの厳しい批判の産物だった。日米安保問題の分析をひとつつの分水嶺としたこの路線上の対立の当否は、日米安保問題への関心が高まっている今日、とくに重要なと思われる。

波多進

一、米帝の日本における位置

(1) 敵とは何か

「孫子」の「謀攻篇」に「敵を知り己を知らば百戦敗うちからず」という一節がある。有名な一文なので誰でも一度ならぬ。おめにかかるつているものとおもう。「孫子」は約千年も前に編まれた兵法書であるが、その後歴史の荒波をぐり今口に生きつづけている。ここでは、この味わい深い一句を革命闘争に流用してみよう。階級闘争は隠れた内乱であり、戦争とは血を流す政治であり、政治とは血を流さない戦争であることを思いおこしさて、わが国の左翼は敵を知っているだろうか。また、己を知つていいだらうか。この問題に入るやいなし、わが国の左翼は混戦の渦中にあることがわかる。敵を知ることのうちには、まず第一に敵はいったい誰なのか、という問題がある。敵が誰なのか知らずして、敵をくわしく知りようはない。ましてや、適確な聞きいをいたむことなどできない。しかしこの第一の問い合わせられて、わが国の左翼の意見は幾つもにわかれるのである。

日米安保体制と日本革命（田次）

一、米帝の日本における位置  
敵とは何か

二、日和見主義主要打撃論  
反ソ排外主義路線（以上本号  
在日米軍と自衛隊（以下次号）  
三、日米安保体制の歴史  
反米排外主義と帝国主義的経済主義

言ふておられまし  
労働階級と資本階級の間の闘いは  
非和解的である。というマルクス主義の  
基本問題はどうだらうか。プロレタリ  
アートにとって全世界のブルジョアジー  
は敵であることを確認しても、問題の核  
心へは一步も近づいたことにはならない

て、革命的・共産主義的ブルジョアジーをあげたことは周知のことである。強大な帝国主義に侵略され、植民地とされた国のプロレタリアートは、民族ブルジョアジーと手をこんだ。日本の中国への全面侵略のなかで、中国共産党は抗民族統一戦線を打ちたてる提案を行つ

て文字通りとうべ、日本民族は当面からの民族自立を聞いた需要がある。したものが、ある。

ソ連は、わが国の支配勢力しないしわ、國の國家権力の支配者だらうか。全くがうことは誰にでもわかる。ここからこの路線的はずれは、ますはつゝ。

る。この任務は、當面する日本革命の  
可欠の一環である」と。  
かれらの主張の眼目は、つまるとい  
領土問題である。そして、この点でも  
彼らの發言をうのみにするわけにはゆか  
かつた。領土問題におけるかれらの主  
張は、歴史をねじまげたものだった。

和裡に取得したとか、その他これに對する正當化は、全くのまやかであり、外主義の產物にほかならない。

それに、争奪はそれで終つたわけがない。日露戰爭の戰利品として大日本國は樺太南部を、第一次大戰の獲物として「社奉主義」ソ連は、千島列島と壇

（以下次号）

反ソ排外主義路線

反ソ排外主義路線

「孫子」の謀攻篇に「敵を知り己知らば百戦殆うからず」という一節がある。有名な一文なので誰でも一度ならぬにかかっているものとおもう。「兵法書」は約二千年前に編まれた兵法書であるが、その後歴史の荒波をぐるぐるに生きつづけている。ここでは、この深い一句を革命闘争に流用してみよう。階級闘争は隠れた内乱であり、戦争とは血を流す政治であり、政治とは血を流さない戦争であることをいおこう。

さて、わが国の左翼は敵を知っているだろうか。また、己を知っているだろうか。この問題に入るやいなあ、わが国の左翼は混亂の渦中にあることがわかる。敵を知ることのうちには、まず第一に敵はいったい誰なのか、という問題がある。敵が誰なのか知らずして、敵をくわしく知りようはない。ましてや、適確な闘いをいどむことなどできない。しかしこの第一の問い合わせて、わが国の左翼の意見は幾つもにわかれるのである。

(4) 在日米軍と自衛隊（以下次号）

二、日米安保体制の歴史

三、反米排外主義と帝国主義的経済主義

労働者階級と資本家階級の間の闘いは  
非和解的である、というマルクス主義的基本命題はどうだろうか。プロレタリアートにとって全世界のブルジョアジーは敵であることを確認しても、問題の核心へは一步も近づいたことにはならない

て、革命的・共産主義的ブルジョアジーをあげたことは周知のことである。強大な帝国主義に侵略され、植民地とされた国のプロレタリアートは、民族ブルジョアジーと手をこんだ。日本の中国への全面侵略のなかで、中国共産党は抗民族統一戦線を打ちたてる提案を行つ

て文字通りどうぞ、日本民族は当面の  
からの民族自立を聞いた需要がある  
したものである。

ソ連は、わが国の支配勢力しないしわ  
国の國家権力の支配者だらうか。全く  
がうことは誰にでもわかる。ここから  
この路線的はずれは、ますはつゝ

る。この任務は、當面する日本革命の  
可欠の一環である」と。  
かれらの主張の眼目は、つまるとい  
領土問題である。そして、この点でも  
彼らの發言をうのみにするわけにはゆか  
かつた。領土問題におけるかれらの主  
張は、歴史をねじまげたものだった。

和裡に取得したとか、その他これに對する正當化は、全くのまやかであり、外主義の產物にほかならない。

それに、争奪はそれで終つたわけがない。日露戰爭の戰利品として大日本國は樺太南部を、第一次大戰の獲物として「社奉主義」ソ連は、千島列島と壇

類す  
排  
帝  
は  
し  
と  
が國への関与、とくに在日米軍をどう  
うかを問題としよう。それによつて  
の當否は一挙につきう。

## (2) 日和見主義主要打擊論

日和見主義主要打擊論

攻守軍事同盟を誓い合う両頭目（83年1月）

いふがわから。現代修正主義論とは、きぱり一線をかくし、僕僕なき論争と闘争とをいどむべきである。これは疑ひなし重要なことだ。だからといって、それも同時に、当面の革命の打倒対象、つまり國家、支配階級と同列視することは、はなはだしい誤りだ。

「四つの敵論」は、奇妙な混杂物でもある。前二者（日本独占資本、米帝、ソシ帝）では、社会体制統体が提示されている。そこでは、支配階級と国家（または支配政党）とは一体のものとして括されている。これに対し、最後の日本共産党は文字通りたんに「政黨」にすぎない。これらは、同列に並べて標的にできるといふものではなかろう。いずれにせよ、「四つの敵論」が、短時日のうちに消えさつたのは異端だった。

「四つの敵論」は、登場当时、新左翼陣営で問題にもされず退けられた。それは、一定嘲笑の対象でさえあつたから。しかし、革マル派の小ブル急進派主要打撃論は、いかにおよばず、中核派の革マル

事はうそ、手を貸して貰ひた。見ねたてのまゝ



一九三九年九月一日、十万人の死者を出すに至った関東大震災下、日本人は残酷なやり方で次々と朝鮮人を殺害した。虐殺はその日の内に始つて日を追うごとにエスカレートし、わずか一週間ほどのうちにその数は、千人に及んだ。六十年をへた今はお殺された朝鮮人の骨は行方が知れず、埋もれたままである。この虐殺は、当時の天皇制国家権力中枢によつて主導され、軍警察・自衛団によつて計画を記録しており、次いで関東から全国に打電、これを理由に、つまり朝鮮人敵として一日、戒厳令が出された。

誰もが、生きのびることにけんめいであった最もに流布された流言——朝鮮人が略奪、強姦、殺人を行つてゐる、井戸に毒を投げこんでいる、大挙して

## 下層から反差別・反失業の烽火を!

10月に大会

# 融和主義と対決し——「よう

第 27 回 鳥 青 全 取 取

のためには、狹山闘争を軸に連合し、統一して闘いを進め、右翼融和主義、利権分子を

命であり、大衆路線である。大衆を教育するのは高座からの幹部の説得ではなく、大衆自身の行動である。幹部の任務はこれ

を援助し、差別される部落民対

人自主・対等の関係を築き上

げ明に向けて、構成され

た。四日の午前中は最新作映

画「隠された瓜跡」上映など

午後は荒川四ツ木橋のたもと少

年の日本人は疑問をもつことなく

瞬時に信用し、口から口へ譲張

されながら広まり、広まるにつ

れて日本刀や薙刀をもちだし竹

やりを作つて自警団は武装した。

近年、新たな国民統合のねらい

殺の真相を究明せず歪曲・隠ぺ

いし、軍警察の殺りくは戒厳

令にもとづく正当行為といなお

り、責任を民衆・自警団による

「騒動」のせいにしてきた。

政府・支配階級の歪曲・隠ぺい策

を食い破つていく必要がある。

虐殺の全貌を明らかにし、真

相を究明し、日本政府の責任を

追及する運動は、「一九六三年を

期に、在日朝鮮人の手で始めら

れた。体験者を捜し、重い

口から事実を掘りおこす粘り強

い運動は、歴史の証言として記

録され、読むものすべてを当時

の修羅場にひきもどす。その後

日本人の運動としても広がり、

この結果、生活の糧を求めて

靈信仰の祭式、追憶の儀式であ

る。実行委員会では、日本人参列

者がチエサを行うことの当否、

意味をめぐり、時に激しい論争

になつた。そして、追憶集会の

目的純粹に死者の追憶式を行

うことをおき、かつ虐殺された

朝鮮人を供養する本来のやり方

で追悼しよう、という在日朝鮮

人の提起を、実行委員の態度とし

て確認することとなつた。

参列者の多くは、見よう見ま

ねで再挙した。両手を頭上にか

げ、そのままやがんこで深く

頭を下げる、これを回行う。

今回のチエサを、とくに日本人

教育の復権、朝鮮人学校の設立

をめぐる阪神地区教育闘争(一

九八四年)のように激しい闘い

が始つた。この闘争への弾圧で

かれている。この発掘作業を

行つた「関東大震災時に虐殺さ

れた朝鮮人の遺骨を発掘し慰靈

する会」を中心へ去る九月三

四日、東京・墨田区で「関東

大震災六十周年・朝鮮人殉難者

追悼合同祭祀」震災下の朝鮮人

虐殺と現代日本を考へる集い」

が開催された。

実行委員の呼びかけに百をす

れば、日本人にとって尊敬と畏

怖の対象であった。それが秀吉

の侵略戦争から日清・日露戦争

に至つた。シンドボは在日朝鮮人が

のメッセージ(義徳相氏)、新

屋英子の身世打鉢——朝鮮女性

の在日史、各地の実践報告、山

田昭次氏の講演——日本人と朝鮮

人の自主・対等の関係を築き上

げ明に向けて、構成され

た。四日の午前中は最新作映

画「隠された瓜跡」上映など

午後は荒川四ツ木橋のたもと少

年の日本人は疑問をもつことなく

瞬時に信用し、口から口へ譲張

されながら広まり、広まるにつ

れて日本刀や薙刀をもちだし竹

やりを作つて自警団は武装した。

近年、新たな国民統合のねらい

殺の真相を究明せず歪曲・隠ぺ

いし、軍警察の殺りくは戒厳

令にもとづく正当行為といなお

り、責任を民衆・自警団による

「騒動」のせいにしてきた。

政府・支配階級の歪曲・隠ぺい策

を食い破つていく必要がある。

虐殺の全貌を明らかにし、真

相を究明し、日本政府の責任を

追及する運動は、「一九六三年を

期に、在日朝鮮人の手で始めら

れた。体験者を捜し、重い

口から事実を掘りおこす粘り強

い運動は、歴史の証言として記

録され、読むものすべてを当時

の修羅場にひきもどす。その後

日本人の運動としても広がり、

この結果、生活の糧を求めて

靈信仰の祭式、追憶の儀式であ

る。実行委員会では、日本人参列

者がチエサを行うことの当否、

意味をめぐり、時に激しい論争

になつた。そして、追憶集会の

目的純粹に死者の追憶式を行

うことをおき、かつ虐殺された

朝鮮人を供養する本来のやり方

で追悼しよう、という在日朝鮮

人の提起を、実行委員の態度とし

て確認することとなつた。

参列者の多くは、見よう見ま

ねで再挙した。両手を頭上にか

げ、そのままやがんこで深く

頭を下げる、これを回行う。

今回のチエサを、とくに日本人

教育の復権、朝鮮人学校の設立

をめぐる阪神地区教育闘争(一

九八四年)のように激しい闘い

が始つた。この闘争への弾圧で

かれている。この発掘作業を

行つた「関東大震災時に虐殺さ

れた朝鮮人の遺骨を発掘し慰靈

する会」を中心へ去る九月三

四日、東京・墨田区で「関東

大震災六十周年・朝鮮人殉難者

追悼合同祭祀」震災下の朝鮮人

虐殺と現代日本を考へる集い」

が開催された。

実行委員の呼びかけに百をす

れば、日本人にとって尊敬と畏

怖の対象であった。それが秀吉

の侵略戦争から日清・日露戦争

に至つた。シンドボは在日朝鮮

人の自主・対等の関係を築き上

げ明に向けて、構成され

た。四日の午前中は最新作映

画「隠された瓜跡」上映など

午後は荒川四ツ木橋のたもと少

年の日本人は疑問をもつことなく

瞬時に信用し、口から口へ譲張

されながら広まり、広まるにつ

れて日本刀や薙刀をもちだし竹

やりを作つて自警団は武装した。

近年、新たな国民統合のねらい

殺の真相を究明せず歪曲・隠ぺ

いし、軍警察の殺りくは戒厳

令にもとづく正当行為といなお

り、責任を民衆・自警団による

「騒動」のせいにしてきた。

政府・支配階級の歪曲・隠ぺい策

を食い破つていく必要がある。